

勉強カフェぐんま太田スタジオのある太田市では産業支援が活発に行われています。勉強カフェは勉強をしたい大人のための空間を提供していますが、太田市ではどのような取り組みが行われているのか、太田市役所産業振興課に在籍された経験のある太田市役所職員山崎美香さん（現太田市美術館・図書館館長）にお話を聞きました。

私が産業振興課の取り組みに興味をもったのが「**おおたなでしこ未来塾**」でした。

☆**おおたなでしこ未来塾**とは・・・

起業に興味のある女性、市内在住。在勤または市内で起業を予定している女性を対象行われている女性創業支援セミナーです。

— まず、おおたなでしこ未来塾を創設したきっかけを教えてください。

「太田市では創業支援という大きな枠組みがある中で、『一般的な企業向けの支援』、『将来の起業家になりうる子ども向けの支援』、『女性に特化した創業支援』の3つ大きな柱に分かれています。国でも女性が活躍する社会を大きくうたっていますが、太田市でも女性の働き方にスポットを当てて女性のための創業支援をしようとなったのがきっかけです。また太田市に住んで良かったと思ってもらうための政策として創設しました。」

□ **小さな取り組みを女性の幸せや生きがいに結び付けたい。**

「起業したからといって一概にすぐ成功して大きな経済的な成果が生まれるわけではないのでしょけれど、例えば専業主婦や子育ての合間にパートに出て同じ金額を稼ぐのであれば、自分の好きなことをして報酬を得る方が誰にとってもいいですね。小さい取り組みだけでも女性の生きがいや幸せに結びつくことが目的の一つでした。」

近年女性の社会進出に注目が集められ、企業や行政も積極的に動いている印象ですが、自分の住む太田市にもこのような取り組みがあることを嬉しく思いました。そして山崎さんのお話の中の「自分の好きなことをして報酬を得る。小さい取り組みだけでも女性の生きがいや幸せに結びつくことが目的の一つ。」という言葉がとても心に残りました。

— 公務員から見た起業家はどのように見えますか？

「総じて起業家の方はフットワークが軽い方が多いです。また前向きな人が多く思えます。やる気や能力が高い人ほど行政に頼りすぎず自分で動いていらっしゃる印象があります。」

— それでは起業するうえで役に立つ勉強や資格は何かあるのでしょうか？

「まんべんなく基礎的な知識をつけるということが前提ではないでしょうか。簿記などは、会社の決算書を読み解く力は必要なので最低限簿記3級程度はあった方がよいのではないかと思います。起業家はどんな資格を持っていても損はないので、この資格というよりは常に勉強をするという前向きな姿勢が重要だと思います。」

— 働く人を支援するうえで心がけていることを教えてください。

「あくまでも支援する立場なので一から十まで起業する人に手を出しすぎてもよくないので良いバランスを保つことを大切に心がけています。」

山崎さんにお話を聞いていて、企業を考えている方だけでなく、起業家を支援する側も知識や自信を持つために常に幅広く勉強するということがわかりました！

— 太田市が今後力を入れていくこと、また力を入れていることを教えてください。

「人口減少、少子高齢化が進む中、いかに人口を増やすかが一番大きいテーマです。太田に定住してもらい、太田で働いて太田で子どもをもうけてもらい、人口を増やしてまちを活性化させることが理想です。そのためには仕事ができる環境をつくって整えていかなければなりません。太田は工業が盛んなまちということは有名ですよ。仕事ができる環境ということは働く場をつくらなければならないので、現在新しい産業団地をつくっています。企業を誘致し、雇用を増やすことにつながっています。太田に住んで働いてもらうことが重要になります。」

□ **太田市の魅力や強みをいろいろなところにアピールしています。**

「どの自治体でもシティプロモーションを行っていますが、太田市では太田のまちはブルーのイメージがあるということで、ブルーフェスティバルを開催しました。夜は屋上でブルーランタンを飛ばしました。このような取り組みで太田の魅力を発信して、「太田っていいまちだね」と思ってもらって何度か足を運んでくれるうちに住んでみようかと思っただけでいいことが理想です。」

— 他の自治体との太田市の違い、自慢できることは何でしょうか？

「子育て支援が充実していることです。今は少子化が進んでいるため少子化対策として第3子以降子育て支援事業を行っています。経済的負担を軽減するためにさまざまな子育て支援事業を実施しています。」

「こどもプラッツも子育て支援の取り組みです。保護者が仕事などで昼間家庭にいない小学生に対し、小学校の空き教室などを利用して、子どもたちの安全・安心な活動場所を確保するという取り組みです。お年寄りの方にも運営に携わっていただくことで、生きがいづくりにもつながると考えられます。」

お話を聞いて、太田市はたくさんの取り組みを行っているということに気づきました。太田市が発行している広報には太田市の取り組みについてさまざまな催しについてのお知らせが載っているのでこまめにチェックしようと思いました。

勉強カフェより
お知らせです！



9月休館日のお知らせ
9月20日（金）

スタジオ内メンテナンスのため、
ご理解の程よろしくお願いたします。
みなさまにはご不便をおかけいたします。



裏面では山崎さんが現在館長を務めていらっしゃる、太田市美術館・図書館についてお話を聞きました。

— 太田市美術館・図書館がこういった経緯で開館されたのか教えてください。

「郊外にイオンなどの商業施設ができて、昔は賑わっていた商店街はシャッターが閉まり閑散としてしまいました。そこで駅前に昔のような賑わいを復活させたいという思いから始まりました。」

「どのような施設をつくるか色々な案が出ましたが、最終的に文化交流施設を考え、美術館・図書館になりました。その中でも美術館は、有名な絵は東京へ行けば見られるので、そうではない気軽に見られるものを展示しています。また3階にはホールがあり、寄席を開催しています。そういったものを開催し人が交流してくれるといいなという思いがあります。」

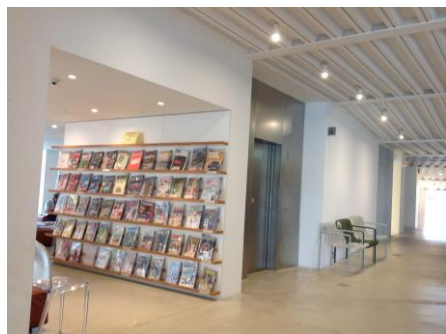
— オシャレな建物ですが、どのようにして設計されたのですか？

「建築家の方が太田のまちを歩いて、太田の雰囲気を感じ取った中で設計案ができました。それをもとに市民のワークショップを5回開いて、行政だけで決めるのではなく市民の意見を取り入れ最終的なパースを決めました。」

「ここまでが美術館、ここまでが図書館と境界を決めるのではなく、境目をあえてなくして色々入り混じっている方がいいのではないかという意見があり、このような形になりました。開館してからもいろいろな形で市民の方に入ってもらって様々な事業を展開しています。」

— 太田市美術館・図書館の特色は何ですか？

「まずはボランティアです。市民の方に企画展示の監視など運営に携わってもらって、図書館運営の一環を担ってもらっています。次に雑誌のスポンサーです。企業に1つの雑誌のスポンサーになってもらって1年間雑誌を購入してもらい、雑誌に企業名（スポンサー名）を入れています。そして、まちじゅう図書館も特色の1つです。太田市内の商店や事務所、個人宅にある本で、小さな図書館をつくるというものです。コンセプトは「人との交流」。各館長のお気に入りの本、思い入れのある本が置いてあります。まちを訪れた人やまちに暮らす人が自由に手に取り、館長との会話をたのしむ「ふれあい」の図書館となっています。最後に図書館の案内です。毎回スタッフが手作りしています。まるでプロが描いたかのような絵です！」



◀ 趣味は勉強につながるのか？ ▶

私はK-POPの音楽を聴くことが趣味の1つです。今ではK-POPのない生活は考えられませんが、まさか自分がK-POPを好きになるとは思っていませんでした。

K-POPを初めて聞いたのは中学生の時、周りの子はみんなハマっていました。しかし私は流行っていると興味をなくしてしまうという少しひねくれた性格をしているので、敢えてK-POPを聴かないようにしていました。そのうえ海外にもあまり興味がなかったのが自ら曲を聴いてみようとは思いませんでした。

そして時は経ち、2018年の2月。私は大学1年の春休みを楽しんでいました。スポーツを見るのが好きなので暇があれば平昌オリンピックの中継を見ていました。フィギュアスケートの演技を見てみると、フィギュアスケートでは聞きなれないヒップホップの音楽が聞こえてきました。曲が気に入りYouTubeで検索するとBTSの曲であることがわかり、「あー、周りの子がみんな揃って良いって言っているグループだ…」と一瞬興味をなくしつつ改めて音楽を聴いてみることに。「なんで今まで聴いてこなかったのだろう！」という後悔が一気に押し寄せました。曲は自分の好み、パフォーマンスは見たことがないくらいに完璧、歌詞もメッセージ性が強い。彼らのことを知れば惹かれる一方でした。

— 来館者はどのような方が多いですか？

「平日の昼間は小さいお子様を連れのお母さんやお年寄りの方、夕方は学生が多く利用しています。休日は親子連れや県外の方もいらっしゃいますね。また建物が斬新なので、建築を勉強している学生が遠方から来館したりします。」

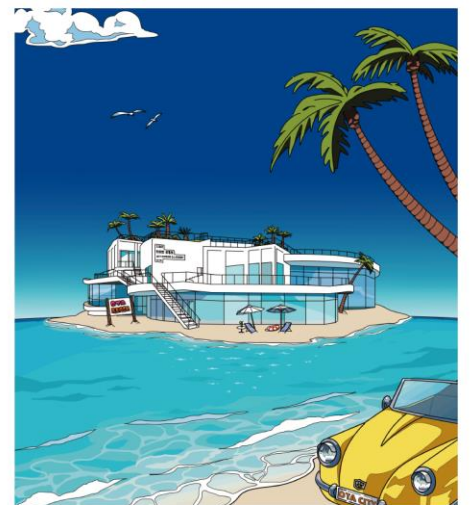
インタビューを行った日は閉館日でしたが、インタビューの最中にも学校帰りの高校生が何度か入り口の前に来て閉館だとわかると残念そうに帰っていく姿が見えました。それほどまちに馴染んでいて太田市の憩いの場になっているのかなと感じました！

今回取材させていただいた太田市美術館・図書館では、8月31日に「Ota Inland Beach (オオタ インランド ビーチ)」が開催されます！こちらのイベントは表面に出てきたシティプロモーションの一環となっています。プロジェクションマッピングを使って会場周辺をビーチ化するなど夏を感じられるイベントのようです！夏の思い出を作り太田市美術館・図書館へお出かけしてみたい方は是非かかでしょうか？

ŌTA INLAND BEACH

2019.08.31 sat
13:00-20:00

開催場所 | 太田市美術館・図書館
ART MUSEUM & LIBRARY, ŌTA



私は1つのことに夢中になると、とことん追いかけてくなくなってしまうオタク気質なので、デビューから今までの作品を見始めました。そこでぶつかるのが言語の壁。ファンが字幕をつけているものを見て話の内容を理解はするものの、すべてに字幕がついているわけではありません。自分が理解できるのは日本語字幕と英語字幕。この時初めて英語の勉強をしていてよかったと思いました(笑)

そしてBTSという沼にどっぷりとハマる最高の春休みを終えて大学2年生になります。この時点で韓国語の勉強をしようと思っていたので、せっかく勉強するなら単位も取りたいなと思い、ハングルの講義を履修しました。また今まで興味のなかった文化や国際交流についても勉強したいと思うようになりその関係の講義を履修しました。自分の知らない文化や気づかなかった問題がまだまだたくさんあるということに学ぶことの楽しさを感じました。

この経験で私は趣味が勉強につながるがあると初めて実感しました。もしBTSを好きにならなかつたら自ら他の言語を学ぼうとは思わなかつたらうし、国際関係についても興味をもたなかつたらうと思います。私は学ぶことで自分の世界が豊かになると思います。何がきっかけで学びにつながるかはわかりません。そんなことで？という意外なところから学びは始まるのかなと考えます。趣味が学びにつながると、自分が好きで勉強するため苦にならずむしろ楽しいです。これからは勉強カフェのスタッフとして皆さんに学ぶことが楽しくて頑張ろうと思えるような快適な空間を提供できるように頑張ります！